慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●診療時間＝午前9時～午前11時
●電話番号（3353）1211（大代表）

新春特別座談会

医学部創立１００年に向けた挑戦の年

医学部長　末松　誠　　常任理事　戸山　芳昭
三四会会長　比企　能樹　　塾長　清家　篤

世界同時不況や新政権誕生など、あらゆる面で揺れ動いた2009年は、慶應義塾においても、清家篤新塾長の就任、医学部、病院の新体制発足という、変革の始まりを感じさせる1年となった。社会情勢、経済状況、さらに医療界を取り巻く現状を考えれば、依然として厳しさはあるものの、慶應医学創立100年に向けて着実に前進している。新年を迎えるにあたり、塾、医学部、三四会代表である4人にお集まいただき、2010年の抱負と展望をお話しいただいた。

※文中の敬称略

地域規模の持続可能性に貢献することを目指す

比企　まずは塾長就任以来、初めての新年を迎え（サスティナビリティ）向上への貢献です。地域規模の持続可能性といって、様々なスローガンとして、その部分になるのかと思います。

まず、いずれは桔梗の新塾インフルエンザを迎えるための学問という意味が込められています。そこで必要になるのは、北里柴三郎先生が唱えられた「臨床と研究の融合」と同様、研究と実践、理論と応用、という両輪です。「実学の精神」に則り、医学部だけでなく、あらゆる学問分野において研究の質をさらに高め、その研究成果を地域規模での様々な持続可能性向上に役立てていくことを、2010年前後の具体的な目標としていきたいと思います。

清家　具体的には、4つの教育の目標を考えています。1つ目は、高度な研究を支える制作り です。

3つ目は、専門課程に進んでからの教育の充実です。卒業研究や卒業論文は、問題を発見し、仮説を立て、検証して結論を導くというプロセスになっていると思います。

比企　その目標を、どのように実現していくのかを考えてみたいと思います。

清家　新塾長として、「地球の持続可能性を高める」などと標榜するのではなく、科学的、客観的、実証的な、エビデンスに基づいて、科学的な知見から数々の問題に挑戦することが重要です。また、人口そのものが減少してしまいますから、人類の持続可能も危うくなります。さらに、今回